



編集・発行 山見乃勢能 宗能勢 蓮宗能勢 広報部
〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

UFO

植田 観肇

残っており現在もUFOで町おこしをしている。

4年ほど前からたびたびUFOを呼ぶ機会を頂いている。といっても、怪しげな団体に勧誘されたわけではなくアートイベントの一环なのだが。いるかどうか分からない何かに向かってみんなの思いが集まっていた様はまるで芥川龍之介の小説「竜」のようだった。しかもこの時、飛行機ではない光を見たという人も。

UFOは日本語で言うところ未確認飛行物体という。だが、これは外国が発祥という訳ではなく、江戸時代の日本でも目撃されている。石川県羽咋市にもUFOにまつわる江戸時代の文献が

羽咋市のUFOは『そうはちぼん伝説』として知られるが、「そうはちぼん」とはお盆や大きな法要の時を使うシンバルのような仏具で、シンバルよりも持ち手のところが大きく膨らんでいる。横にすると、それはまさに皆が知るUFOのフォルムだ。文献によるとこれが夜な夜な妖しい光を放ち、羽咋市の空を飛んでいたらしい。

日本のUFOらしきものはこれだけではなく、江戸時代よりさらに遡る鎌倉時代、神奈川県でも目撃されている。時は文永八年九月十二日の深夜、日蓮聖人が龍ノ口

の刑場でまさに首を切られようとしていたそのとき。「江ノ島の方より満月のような光ものが飛び来たって首斬り役人の目がくらみ、恐れおののき倒れ」(日蓮聖人の御遺文より) 斬首の刑は中止となった。皆が知る龍口法難的一幕だ。この「光もの」の正体は何なのかは未だに不明だ。だが、もしかすると当時の日蓮聖人を助けたいという人々の

必死の願いや祈りがこのような「光もの」を呼んだのかもしれない。日蓮聖人は、異体同心なれば万事を成し、同体異心なれば諸事叶う事なしとおっしゃった。私達の願いは法華経を世界中に弘め実践することで平和な世の中を実現することだ。この大きな願いを成就するため、皆の祈りを一つにして共に取り組んでいきたい。

《法華経に学ぶ現代》

願わくは

佛

未来の為に

演説して

開解せしめ

たまえ

『從地涌出品第十五』

彼岸というのは理想の世界
迷いを離れた悟りの世界
そんな世界の入り口を
教えて下さい仏さま
これに伝えて仏さま
迷うでないぞ諸人よ
泥中蓮華というように
悩みは悟りの種となる
苦しむことを怖れず
今をしっかりと生きるなら
彼岸の道は開くべし
かようにお説きになりました

【9月の主な行事】

- ☆八朔会祈禱祭 2日(日)終日
- ★写経会 9日(日)11時
- ★月例祈願法要 15日(土)13時
- ★星嶺演奏会 16日(日)11時
- ★星嶺茶論 16日(日)13時
- ☆お題目の太鼓練習です。
- ☆秋季彼岸会法要 22日(土)13時
- ☆ご先祖の供養をお申込下さい
- ★鷗様月例祭 22日(土)15時

【10月の行事予定】

- ★写経会 14日(日)11時
- 初心者の方もどうぞ！
写仏もできます。
- ★月例祈願法要 15日(月)13時
- ★星嶺演奏会 21日(日)11時
- ★星嶺茶論 21日(日)13時
- ☆お題目の太鼓練習です。
- ★鷗様月例祭 22日(月)15時
- ※火伏守札を授与
- ☆お風入れ 宝物館公開展示 22日(月)〜24日(水)

◎年に一度の宝物館公開展示

《交通のご案内》

◆リフトは土砂崩れのため運休
ケーブルは毎日運行中

良薬を頂きましょう

桑木 信弘

梅雨が明けて夏になりました。今年は例年よりも暑い日が続いたせい、棚田の稲はいつもより早く実り穂先が垂れています。

豪雨の被害や台風にも、暑さにも負けずに静かに根を張り続ける姿には逞しささえ感じます。私達の生活に欠かせないお米はヨネと読み、これは代根、代を繋ぐ根という意味合いもあります。

以前ある小学校で、給食費を支払っているのだから「いただきます」を言うのはおかしいと保護者からクレームが付き、給食は笛の合図で食べたそうです。ですが、その場を想像してみると何か味気ない光景に思えます。やはり大きな声で元気よく「頂きます！」と言って欲しいですね。

神道には古来より「神と

は火水（カミ）であり嘯である」という考えがあるそうです。

森羅万象は火と水が嘯み合うことで生じ、この二つを結びつけることが呼吸（水火／イキ）だそうです。そこから、神々嘯にて食を大切にし、呼吸と食を正す事で身と心を磨くと考えるそうです。

さて、法華経には「舌根 浄く悪味をうけず」と説かれてあります。一滴の水、一粒の米にも仏様の慈悲が込められております。生かされてる恩に感謝して供養の心で食すなら、全ては良薬となります。

良薬にも上中下がありま す。下は治療薬、中くらいが予防薬です。では上の薬はというと医食同源、やはり毎日の食事だそうです。食の積み重ねは人の運命を左右しますが、飽食の時 代と言われて久しい我が国では、豊かな社会に見えて

ブナ林は世界中の誰もが美しいと感じる森である、とは大阪府立 大学名誉教授増田昇先 生の弁。世界には色々な森があるが、素人目には年中同じような景色に見える。一方でブナ林は四季折々ダイナミックにその表情を変えるため、私達はその変化に魅せられるのか

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

もしれない。お釈迦様はこの世は諸行無常である、つまり変化し続けていると説かれた。歳を重ねると新しい事にチャレンジするのが億劫になるが、変化し続けることは世の理。どうせなら積極的にならなければならない。U.K

俳壇

（みのり）

空のいろ木々吹く風に秋を知る
隣り家の窓照り返す秋入り日
大杉を真赤に染めて秋夕日
秋扇満員の席蝶のごと
日照りにもめげず色よき秋の薔薇ばら

法華経茶話

法華経の成立(五)

さて、前回まで大乘仏教と小乗仏教の違いについて触れながら、法華経が編纂されるまでの過程をみてきました。法華経は、全ての者は成仏できると説き、大乘と小乗の隔たりをなくすことを目的として編纂されました。つまり、法華経でお釈迦様が語りかけている主な聴衆は、大乘の修行者である菩薩と小乗の修行者ということです。

しかし、お互いを批判し合っている一方は成仏できないと思いついて修行者になり、いきなり全ての者は成仏できると言ったところで信じてもらえない場合があります。そこでお釈迦様は、七つの譬え話を用いて平易に教えを説かれました。この譬え話を総称して「法華七喩」と呼びます。次号からは、この「法華七喩」についてみていきたいと思います。